

<京都産業学センター・共同研究プロジェクト紹介>

京都まちづくり・経済振興研究

龍谷大学経済学部教授

辻田 素子

和食のユネスコ無形文化遺産の登録（2013年）や祇園祭の後祭復活（2014年）など、京都の歴史的・文化的魅力の発信力が高まる中、京都の観光客数は急増し、2014年には過去最高の5564万人が京都市を訪れました。宿泊客数も過去最高の1341万人で、とりわけ外国人の伸びが大きくなっています。半面、宿泊施設不足は深刻です。また、観光客の急増に対し、交通渋滞やごみ・騒音問題などで地元住民との間に軋轢も生まれつつあります。

共同研究プロジェクト「京都まちづくり・経済振興研究」では、こうした問題意識の下、2015年10月29日、京都市産業観光局の観光政策担当局長（観光政策監）、糟谷範子（かすやのりこ）氏を訪ね、観光産業のさらなる振興を図りつつ、市民の生活の質をいかに維持、確保していくのかといった課題を議論しました。

また、2016年2月23日には、四条繁栄会商店街振興組合を訪問。人と公共交通を優先する「歩いて楽しいまちづくり」を進める京都市が、そのシンボリックな事業として取り組んだ、京都市最大の繁華街である四条通の歩道拡張（片路二車線のうちの一車線をつぶし、歩道を拡張）の功罪などについて、ざくばらんな意見交換を行いました。

理事長の堀部素弘氏には本学での講演を依頼しました。今後は、同商店街振興組合や地元自治連合会などの協力を得ながら、四条界隈の店主や住民らを対象にしたアンケート調査や聞き取り調査を実施し、観光産業の振興と住民の生活、まちづくりなどの在り方について、実践的な検討を進めていきたいと考えています。